



いんまじら

『ブランドかぼちゃ』
産地のプライドと結束力

ほめられかぼちゃ部会視察研修会

品種の存続にかかる重責に挑む

葉ボタン採種栽培

伝統の味を守る

ゆで干し人参の加工現場

五島三菜

2023

3

MARCH
JAごとう
No.205



斜面に作られたかぼちゃ。五島地区に比べて平地が少ないようで、こうした風景が随所に見られました。



幼苗期の防風・害虫対策と健全育成のためにできるだけ長い期間トンネル内で生育させているそうです。



沖縄本島の面積は1,207km²。五島列島の総面積690km²の1.7倍。人口は129万人。五島市と新上五島町を合わせた5万3千人のおよそ24倍です。

沖縄

『ブランドかぼちゃ』 産地のプライドと結束力



吉谷祐二

JAごとう農産園芸部の宮指指導員で主に東部地区を担当しています。今回、ほめられかぼちゃ部会の視察研修会に同行させていただきましたので、沖縄のかぼちゃの現状を紹介します。

ほめられかぼちゃ部会視察研修会

JAごとうほめられかぼちゃ部会は、2月7日から9日の日程で、視察研修会を行いました。

視察に訪れたのは、沖縄県の沖縄本島にある名護市と、南風原町津嘉山(つかざん)地区です。沖縄では、すでにかぼちゃの収穫が始まっています。

今回の視察研修会には、大谷部会長をはじめ部会役員4名に加えて五島振興局とJAごとうの担当職員それぞれ2名に、取引先のMVM商事株式会社から真利氏に参加して頂きました。現地を案内してくれたのはJAおきなわ農産部の職員の方々です。

JAおきなわは、平成14年に県下27JAが合併して正組合員数45000人の県単一JAとして誕生しています。那覇空港から車で1時間30分。名護市がある北部地区では、土壌診断の指標がpH5.1という酸性土壌を活かして栽培されるパイナップルが主要作物です。

ここでは、部会員100名が作付面積40ヘクタールでかぼちゃを栽培しています。品種は「えびす」が5割と最も多く、他にも「くり將軍」、「栗天下」などが栽培され、令和3年度は、出荷量338トンの内160トンが

MVMに出荷されています。

また、北部地区では、令和元年度から2年度にかけて疫病による腐敗果が多発したことを受けて、部会では農薬の適宜散布を義務化するなど、病害虫対策を徹底しているそうです。

那覇市に近い南風原町津嘉山地区は、部会員23名で9ヘクタールのかぼちゃを栽培しています。南風原町は「かぼちゃの里」としても知られ、主要品種は「えびす」です。

完全させることで糖度が20度を超える甘さが特徴で、「津嘉山完熟かぼちゃ」「南風原かぼちゃ」のブランド名で、そのほとんどが県外に出荷されているそうです。

市場のかぼちゃが品薄になり価格が上がる時期に高品質なかぼちゃを安定して出荷することで、高い市場価格を実現しています。しかし近年、宅地開発による区画整理が進み農地が減少。部会員の高齢化も相まって、最盛期は45名いた部会員も半減していて、産地としては縮小傾向にあるそうです。

圃場は住宅地に囲まれ、いわゆる都市型農業で、中には近隣地区に向き作付けを行っている状況にあるそうです。

もともと南風原を含む南部地区は、pH6.8〜8.0の



選果場への出荷は250kg入りの木箱を使って行われていますが、MVM商事向けと雨天時は鉄製のコンテナが使われています。

弱アルカリ性土壌でサトウキビの栽培が盛んです。他にも極楽鳥に似た花で極楽鳥花とも呼ばれるストレリチアも栽培されていて、訪ねた集荷場では選花が行われていました。

農担当者と意見交換をするこ
とが出来ました。その中で、
沖縄では高齢化による作付面
積の減少と、台風の被害対策
という五島地区と同じ課題を
抱えているということでした。
しかし、沖縄の部会員は、人
数が減少する中でも、ブランド

かぼちゃの産地として意識が高
く、目揃え会には全員がサンプ
ルを持ち寄って行うそうです。
また、集荷時の検査も基本は職
員が行いますが、部会員同士で
も選果基準が甘い場合には遠慮
なく注意し合う関係性が出来て
いるなど、部会の結束力が強
く、部会員同士の意思疎通も充
分に図られているような印象を受
けました。

台風対策としては、防風ネッ
トを設置するほか、圃場の間作
にソルゴーやサトウキビを植付
ける防風対策を部会全体で行っ
ているそうです。

大谷部会長は「かぼちゃの圃
場は、五島の方が平地が多く恵
まれています。今後、ブランド
化や産地化を目指すには、部会
員の意識の向上と、お互いの意
思疎通や情報共有が重要になっ
てきます。これからも関係機関
や部会員と連携しながら、面積
の拡大を図っていききたい」と決
意を新たにしました。

五島のかぼちゃは、これか
ら苗の植え付けが始まりま
す。その前にこうして視察研
修が出来たことはとても有意
義だと思えます。今回、沖縄
で得た技術を生産者の方々に
伝え活かし、昨年以上の実績
を残せるよう圃場巡回に努め
たいと思います。

早速、部会役員会で今後の取組協議

沖縄から戻り1週間後の2月16日、ほめられかぼちゃ部会は早速、部会役員会を開きました。

国が令和5年度の概算予算で園芸作物の生産と供給を拡大するため加工・業務用向けの大規模契約栽培に取り組む産地を育成支援する「大規模契約栽培産地育成強化事業」を策定

したことを受けて、部会では事業への参加と定められた事業要件を部会員全員で満たすことで産地拡大の足掛かりとすることを決定。24日の栽培講習会で部会員へ事業の説明と3年にわたる支援要件の取り組みについて協議することとしています。



立派な苗が育ち 配布の準備進む

大浜にある育苗施設では1月中旬に蒔かれたかぼちゃの種が立派な苗に育ちました。

2月15日。ハウス内には、育苗ポットの中で天に向かって芽を伸ばし、緑鮮やかな葉を広げた苗達がコンテナに移され、生産者の元へ届ける準備が進められていました。



品種の存続にかかる 重責に挑む

新品種の開発と育成には長きにわたる労力と費用が投入されています。それを第三者が安易に増殖させることは法律上認められていません。「種苗法」で守られる新たな品種は農家の手に委ねられ育成されて皆様の元へ届けられています。

葉ボタン採種栽培

タキイ種苗の担当者から菌核病対策について指導を受ける生産者の山口登さん(左)



花は、日常に華やかさを添えて心地よい空間を作ってくれる存在です。ご存じの通り、その品種は数えきれないほど多く、国内では多様化する嗜好性に応えるために様々な機関で新たな品種の開発が進められています。

種苗会社から委託を受けて行われる採種栽培は、その名の通り花のタネを採るために作られるもので、JAごとう管内では、20年以上前から葉ボタンの採種栽培が行われています。

栽培を委託しているのは、国内外で野菜・草花・牧草・芝草種子の開発・生産・販売を行うタキイ種苗株式会社(本社京都市)。

野々切町大窪地区では、3戸の農家が44アールの葉ボタンの採種栽培を行っており、2月15日、現地検討会が開かれました。

検討会には委託会社のタキイ種苗の担当者が来島。生産者とビニールハウスを回り、成長具合や病害虫の発生状況などを確認しながらタネを収穫するまでの栽培管理の指導が行われました。

こうした現地検討会は、葉ボタンの種蒔きから収穫まで成長時期に合わせて一シーズン

きゅうり部会反省会

増員と面積拡大が急務



JAごとうきゅうり部会(小林善孝部会長)は2月21日、出荷反省会を開き、令和4年産きゅうりの実績と5年の生産計画について協議しました。

栽培されるきゅうりは、そのまま市場に出回る青果用と一度漬込みして販売される加工用があります。その殆どが加工用です。

76名が約6ヘクタールの作付けを行った4年産きゅうりは、気象の影響やベト病など病害虫の被害が少なかったほか、「中白」といわれる中身の水分が抜けスポンジ状になる症状も少なく作柄は上々。

コロナウイルス感染拡大の煽りで販売不振に陥った令和2年。部会は生産調整という苦渋の決断を下し、栽培面積を11ヘクタールから8ヘクタールに減らし、漬物用として二次加工されたきゅうりの在庫の消化を図ってきました。しかし、販売状況はほどなく回復。令和3年から作付面積を増やそうと努めています。依然として厳しい状況が続いています。

近年、コロナによる販売不振が払拭され、関西に加え新たに関東方面からの受注も増えている加工きゅうり。この現状に部会では、夏場の貴重な収入源でもあるきゅうりを産地として維持していくため、今後も部会員の増員と面積の拡大に取り組んでいきます。



に5回ほど行われ、今回は12月以来3回目。

タキイ種苗の担当者によると、タネの収穫を目的とする採種栽培は、花を収穫するのとは違い、栽培期間が長く、その分、病害虫の防除対策がさらに難しくなってくるといいます。収穫されたタネの出来具合が、発芽率など商品としての品質を大きく左右するのです。

葉ボタンの代表的な病気は菌核病や灰色かび病。この時期は特に温暖で多湿になりがちなどニールハウスの中は、病気の原因となるカビ菌が発生しやすいため、生産者は換気に気を配り、一株ごとに病気が発生しやすい株元や葉の付け根の通気性を図るなど、これらの病気には細心の注意を払っています。また、葉ボタ

ンはアブラナ科で、害虫が付きやすい植物。主な害虫にはアブラムシやアオムシなどがありますが、中でもコナガは新芽の中に潜り込んでしまう厄介な害虫のため対策が難しいとの事です。

菌核病などの発生が多く品質低下が心配された昨年に比べ、今のところ生育は順調なようです。

3月になると葉ボタンは開花時期を迎えます。花が咲くと重要なのが花粉交配で、その手段としてミツバチが用いられています。

葉ボタンには雄株と雌株があり、植えつけ方も品種ごとに定められています。雌雄両方の花が開く頃には、交配用ミツバチが入った木箱をビニールハウスの中に置いて一か月ほどかけて花粉交配させ



お正月の縁起物としても人気の高い葉ボタン。その種類は数十種類に及びます。雌雄別の株であるため、定植時には交互に混合して植えられます。この品種では雌株を取り囲むように雄株が植えられています。

ます。この間、生産者はお互いのハウスをうかつに行き来することはできません。なぜなら、それぞれが違う品種の葉ボタンを栽培しているため、自分のハウスから他のハウスに衣服などに付着した花粉を持ち込んでしまうと最悪の場合、混合品種が出来てしまう恐れがあるのです。

無事に花粉交配が終わった葉ボタンが実を結びタネが出来るのが7月。昨年9月の種蒔きから11か月をかけて生産者の苦勞もこの時ようやく実を結びます。

煩雑化が進む 税務申告への支援

インボイス制度の開始を前に 重要性を増す会の役割

JAごとう青色申告会

参加した会員は「年と共に視力が落ちて申告書を作るのも難しいが、こうして相談して進められて助かる」さらに「経理が苦手な私は、農作業に専念できてうれしい」などと喜ばれていました。

また、今年10月1日から開始される「インボイス制度」(適格請求書等保存方式)を受けて、会員へのインボイス事業者としての登録申請の説明や受付などが新たに加わったことで、申告会の役割はますます重要になってきています。

令和4年分の確定申告に向けてJAごとうは、1月31日から3月7日まで管内の支店・出張所の10か所で確定申告・消費税申告の指導相談会を開きました。

JAごとうでは、農業者の税務申告支援のため、毎年この時期に開いており、JAの担当職員が一人ずつ申告の相談や指導を行っています。

参加したのは、管内の「JAごとう青色申告会」に加入する会員250人。担当者は、会員が持参した必要書類と申告内容を確認すると、それぞれの書類をもとに、確定申告書を仕上げます。



会員と申告内容を確認したあと、申告書類の作成が進められます。



建屋内に造られた棚

日中、屋外で干された人参を夕方から翌朝までここで乾燥させます。

伝統の味を守る ゆで干し人参の加工現場

五島三葉 手間と時間を惜しまず丁寧に作られるものこそが特産物たる所以^{ゆえん}

ゆであげた新鮮な大根と人参を冬の季節風を利用して自然乾燥させ、ひじきと混ぜ合わせて作られる「五島三葉」は、昔から五島に伝わる健康食品です。

今回は、「五島三葉」の原料の一つ、ゆで干し人参の加工の様子を紹介いたします。

ゆで干し人参作りの主な工程は、人参の皮むきから始まり、裁断してゆで上げたあと、天日干し、さらに屋内の棚干しを経て乾燥室に移され、水分調整などの最終仕上げが行われます。

北寄りの風が吹く1月末、岐宿町にある㈱JAFファームごとうの加工施設では、ゆで干し人参作りが最盛期を迎えていました。

冷え込む快晴の朝——作業場に入ると、すでに人参をゆでる準備が進められていました。火にかけられた釜から湯気が立ちのぼり、その傍では、機械を使って人参が細かく裁断されています。

奥に進むと乾燥室があり、ここでは前日から屋内の棚で干されていた人参を搬入する作業が行われていました。

「乾燥室では、24度から26度の温風で乾燥させます。夕方には仕上がりですが、天気が悪いと、夜9時や10時までか

かることもあります。ゆつくり乾燥することで、人参の傷みを防ぎ、一定の水分量に仕上げることができまます」と説明してくれるのは長年施設で作業に従事する宮本繁行さん。

しばらくすると、釜が沸騰しはじめました。裁断した人参を入れた籠が、チェーンブロックを使ってゆつくりと釜の中を下ろされていきます。

程なく釜の落し蓋の隙間から赤い煮汁がぐつぐつと音を立てて沸き上がってきました。

「ゆで加減の判断は経験から生まれた勘です。ゆで過ぎてもいけません」と宮本さん。人参がゆであがるまでの間も専用の棒を使って攪拌（かくはん）しながら人参の硬さを確認しています。

ゆで始めて20分。籠が立ちのぼる湯気とともに釜から引き上げられました。籠の底が開き、出てきた人参の鮮やかな色が更に増しています。ゆであがった人参は、すぐに木枠に張られた網の上に手際よく広げられます。

その後、コンテナに乗せて屋外に運び出されると、敷地内にある棚に並べられ、天日と北風を利用して乾燥させます。

外で干している間にも、日当たりや風通しの具合を見ながら棚を移動させたり、片寄った



立ちのぼる湯気とともに籠が引き上げられました。



ゆであがるまで約20分。その間もゆで加減を見極めていきます。



落とし蓋の隙間から人参の朱い煮汁が沸き立っています。



温風で仕上げを行う乾燥室。ここでもムラが出ないように小まめに移動させます。



ゆであがった人参は手際よく網の上に広げられます。



夕方には建屋内の棚に移し翌朝まで更に乾燥させます。



運び出された人参は屋外の棚で夕方まで天日で乾燥させます。



人参をならしたりと、まんべんなく乾かすための作業が行われていました。

午後3時を過ぎ、日が傾く頃になると、人参の表面は水分が無くなり、十分乾いたように見えます。しかし、まだまだ中は半生状態。更に乾燥させるため屋内にある棚へ移動させます。屋内に造られた棚は、幅10メートル、長さ30メートルの鉄製ビニールハウス型の建屋の中にあります。

コンテナに載せた人参が外から次々と運び込まれてきました。それを全員で棚に隙間なく並べていきます。1時間ほどかけて並べ終える頃には、棚一面が夕日に照らされ、整然と並ぶ人参が鮮やかな朱色に輝く光景を前に、しばらく時間を忘れ見とれてしまいました。

この施設では、一日に約1トンの人参が加工されていますが、ゆで干し人参として出来上がる量はわずか70kgほどです。

時間と手間をかけて作られる「五島三菜」。ときには皆様の食卓に並べてみてはいかがでしょうか。

3年ぶりの視察研修へ



J Aごとうの女性部は、女性部活動の一環として、10日から2泊3日で女性部役員による視察研修旅行を行いました。

同研修は毎年1度開催される「家の光大会」に合わせ、同大会に参加し更なる女性部活動の発展を目指して開催されています。近年はコロナ禍もあり、同大会の参加にも制限が設けられたことから開催を見送っていましたが、コロナ禍の落ち着きを鑑みて3年ぶりの開催となりました。



今回の視察研修は残念ながら出発の直前に「家の光大会」の参加人数に制限がかけられ、同大会に参加は叶いませんでしたが、熊本県山鹿市にあるJ Aかもとのファーマーズマーケット「夢大地館」と、同県菊池市にあるJ A菊池の農産物直売所「きくちのまんま」を訪問。当J A産直市場との違いや、地域の違いによる作物の違いなど、熱心に視察を行っている様子でした。

フレッシュミズ部会活動

親子で楽しく餅作り



2月25日、J Aごとうのフレッシュミズ部会が、部会活動の一環である親子教室を開催し、「かんころ餅作り」を行いました。

甘藷を蒸すところから同教室はスタート。直径1メートルほどの巨大な鍋に蒸籠をのせ、甘藷を蒸しあげていきます。吹き上がる湯気に子供たちは興味津々の様子。甘藷が蒸しあがると、製餅機を使って餅と混ぜていきます。機械へ押し込む作業は力のいる作業ですが、これにも子供たちは飛びついていました。いよいよかんころ餅が出来上がると、最後の仕上げで棒状に成型し、袋に詰めていきます。大きなトレイに餅と粉を敷き詰め、その上でコロナと成型する作業ですが、手や顔まで粉まみれになりながら、この日1番の笑顔で子供たちは作業していました。

出来上がったかんころ餅はなんと95本にもほり、皆の作業の甲斐もあって非常に美味しい出来となりました。



知らないと怖くて さわれないスマートフォン

安全な使い方を知ると便利な機能が満載です。



スマホ教室



その場で手に入り、地球の裏側にいる相手とも顔を見ながら話ができるという一昔前までは想像もできなかったことを実現させるアイテムで、その機能の進化にも目を見張るものがあり

今や生活の必需品となつたスマートフォン。日本国内のスマートフォンとケータイの所有者のうちスマートフォン比率が2010年には4%程度だったのが、2022年に94%を超えたというデータもあり、今後もますますスマートフォンフォンの比率が高まっていくことが想定されるといいます。世界中を飛び交う情報が

ます。しかし、スマートフォンは進化につれてトラブルや事件に巻き込まれるものも事実です。とはいえ、有意義に使用する分にはこれほど便利なものはありません。そんな中、JAのごとうは、スマートフォンを持つ便利で優れた機能や操作方法を覚えて、日常生活で活用してもらおうと2月20日、

「スマホ教室」を開催しました。NTTドコモから講師をお招きして、今回はスマートフォン初心者の方や、通話やメール以外使ったことがない方に向けてインターネットの使い方を教えていただきました。インターネットを見るために使われるソフト「ブラウザ」や「アイコン」をタップ「など、あまり聞いたことがない用語に参加者は戸惑いながらもニュースを開いたり、気に入った情報サイトを見られるようになるブックマークへの登録方法などが紹介されました。中でも、インターネットの検索の仕方、従来の文字を打つキー入力の話しかける音声検索ができて、音声入力には、参加者もその便利さに驚いていました。また、インターネットを使う時の注意点として、近年、被害が増える詐欺メールやウイルスに感染させるサイトがあるため、メールやサイトを開く際の注意点も習いました。「スマホの使い方は子供に聞いてもなかなか要領が得られないので諦めていました。こうして丁寧に教えてもらって良かったです」と参加した方々も喜んでいました。スマホ教室は次回、3月27日に開催される予定です。ご希望の方はお近くの支店の窓口でお申し込みください。

農業経営に身近で安心なメインバンクに

新規就農者様向け説明会

JAのごとうは、新たに農業をはじめられた方々にJAをより知ってもらい、農業を経営していく上で特に欠かせない金融面のサービスを案内する「新規就農者様向け説明会」を2月7日、本店で開催しました。

説明会には、2年以内で就農した20代から40代の就農者12名の内、6名が参加。本店金融部の職員がJAの組



織とJAバンクについて説明しました。

JAバンクでは、就農するにあたって必要な機械や施設、運転資金などを準備できる「青年等就農資金」の提供をはじめ、JAバンク長崎独自の資金として、世界情勢の変化や高騰した資材購入に対応した「災害対策資金」や、すでに他の金融機関から借り入れた農業資金の借り換えに対応する「営農サポート資金」は金利優遇措置である利子補給や保証料の助成がされるなど、JAバンクは農業経営を資金面で支えます。

参加者からは「充実した資金で対応いただくのはいいですね。ただ、いろんな要因で農業経営が悪化した際の改善に向けた経営指導にも期待したいですね」との声も聞かれました。

JAバンクは全国に民間最大級の店舗網を展開しているJAバンク会員(JA・信連・農林中金で構成するグループ)の名称です。



第19回 五島市民駅伝大会結果

チーム名	順位	1区(4.3km)	2区(3.0km)	3区(2.2km)	4区(3.8km)	5区(3.4km)	総タイム
JAごとうA	総合：6位 (職場：4位)	鍋内 豊海 16' 29"	野口 建志朗 12' 02"	吉村 晃一 8' 48"	尾上 建基 16' 11"	久保 風輝 15' 34"	69' 04"
JAごとうB	総合：11位 (職場：9位)	原 依吹 18' 17"	原 直輝 13' 43"	小村 篤志 10' 34"	山口 重章 17' 46"	出口 弘貴 15' 37"	75' 57"

17キロ先のゴール目指して

1月29日、JAごとうの有志職員で作られた駅伝チーム2組が、五島市民駅伝大会に参加しました。

コロナ禍の影響もあり、開催を見送っていた同大会へは3年ぶりの出場となった今回。毎年11月ごろから有志職員が集まり、週に3回ほど練習を行ってきましたが、過去2年は大会の中止が発表されては肩を落としていた職員たち。ようやくその練習の成果が発揮できるとあって、熱意のこもった表情でスタートラインに並びます。当日は気温も低く、小雨もばらつく中でしたが、職場對抗の部で航空自衛隊、消防署に次ぐ第4位でAチームがゴール。Bチームも9位でゴールとなり、2チームとも健闘を見せました。

沿道からの応援、誠にありがとうございました。今後もJAごとうは地域イベントへの参加を通じ、地域社会の発展へ貢献して参ります。

第2回

参加費無料

JAスマホ教室を開催します！

3月27日(月)

～教室の内容～

第1部
インターネットを
使ってみよう

第2部
ラインを
はじめてみよう

第1部 10:00～(基本編)

第2部 13:30～(応用編)

1部・2部連続での参加も可能です！

JAごとう本店大会議室にて

定員15名

※定員になり次第締切ります

申込やお問合せは金融部まで
担当：野口 (TEL)0959-72-6212



令和5年2月吉日

組合員・お客様各位

ごとう農業協同組合
代表理事組合長 家永 嘉弘
(公 印 省 略)

週休二日制導入のお知らせ

拝啓

時下、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

J A事業・運営につきましては、日頃より特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度当組合では、昨今の社会情勢や働き方改革による職場環境の改善、人材確保等を図るため、令和5年4月より「週休二日制」を導入することになりましたのでお知らせ致します。

皆様方には大変ご不便・ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力のほど宜しく願い申し上げます。

敬具

記

1. 実施日：令和5年4月1日より
2. 営業日：毎週月曜日～金曜日（8時30分～17時）
※各本・支店等の土曜午前中の営業は廃止させていただきます。
3. 対象店舗：本店、各支店・出張所・詰所、坂の上事業所、農機センター
※各支店給油所、SS本店、Aコープ店舗、直売所、J Aグリーン等は現状通りの営業とします。

農繁期の業務については、これまで通り休日であっても別途対応させていただきます。

ご不明な点等ございましたら、お手数ですが本店・最寄りの支店等へ問い合わせください。

令和四年度第十一回理事会

令和五年二月二十二日(水)開催

次第

1 議案事項

議案No. 1 総代選挙管理者・立会人の指名について

※可決・承認された

議案No. 2 出資金の減口について

※可決・承認された

議案事項 その他

2 報告事項

報告No. 1 主な事業経過と行事予定について

報告No. 2 主要事業1月末計画と実績について

報告No. 3 産直市場「五島がうまい」1月末実績について

報告No. 4 令和4年度1月末食肉販売実績について

報告No. 5 令和5年1・2月期県内家畜市場市況について

報告No. 6 令和4年度第3四半期コンプライアンス・プログラム実践状況について

報告No. 7 令和4年度第3四半期自主検査結果とりまとめについて

報告No. 8 令和4年度第3四半期相談・苦情等の対応状況について

報告No. 9 反社会的勢力排除対応管理先対応状況について

報告No. 10 令和4年度第3四半期余裕金の運用状況について

報告No. 11 令和4年度12月末資産自己査定結果について

報告No. 12 令和4年度第3回債権管理委員会の結果について

報告No. 13 令和4年度第3回債権管理委員会の結果について

報告No. 14 総代選挙要領・役員選任要領の一部変更について

報告No. 15 令和4年度期末見込および次年度事業計画について

報告事項 その他

富江トマト選果場作業員募集

作業期間 9月中旬～6月中旬

作業場所 山手トマト選果場

(富江ライスセンター横)

詳細は富江支店 営農経済課までお問い合わせください。
☎0959-86-2111

施設作業員募集

作業期間 作業場所

3月～11月 育苗センター

3月～10月 アスパラ選果場

12月～5月 ブロッコリー選果場

12月～3月 高菜加工施設

詳細は本店 農産園芸部までお問い合わせください。
☎0959-72-6214

葬儀のことなら誠意と真心で奉仕する



株式会社JAごとう葬祭

斎場 浄倫会館

事前相談受け付けております。

【本店】

〒853-0041 長崎県五島市籠淵町2450

TEL 0959(72)8211 FAX 0959(74)5266

【上五島支店】

〒857-4404 長崎県南松浦郡新上五島町青方郷355-7

TEL 0959(52)2417 FAX 0959(43)1955



産直市場

五島がうまい

住所：〒853-0041 五島市籠淵町2450番地 1

電話：0959-88-9933 FAX：0959-88-9922

営業時間：9時～19時（4月～9月）

9時～18時30分（10月～3月）

※農家レストランは10時30分～15時（予約については別途）

※土日限定バイキング 11時～15時

料金 大人：1,200円 子ども：650円（小学生以下）

休業日：棚卸日（9/末、3/末）年始（1/1・2・3）

編集後記

まだまだ注意が必要ではありますが、以前と比べるとだいぶ落ち着きを取り戻してきたように思える新型コロナウイルスの状況。3/13からは国のマスク着用方針も緩和されるということで、今後の広報誌ではマスクのない状態で、しっかりと皆さん表情を撮影できるようにするのではないかと考えています。そうなれば、これまで以上に写真の重要性が増していくと思います。皆様の素敵な表情を引き出し、よりよい広報誌を作っていくためにも、しっかりとカメラの技術向上を目指していくと共に、撮る側が笑顔でなければ撮られる側も笑顔になれないと思いますので、しっかりと笑顔の練習をして取材に臨みたいと思います。

（長瀬 俊一）



●JAごとうNo.205 ●発行/ごとう農業協同組合 編集/総務部企画管理課 〒853-0041 五島市籠淵町2450番地1 ☎0959-72-6211

●http://www.ja-goto.or.jp ●印刷/(株)昭和堂

※本書の無断転写、複製、複写を一切禁じます。